

編集委員会から

ISO4 形式のジャーナル名略称

編集委員長の仕事の一つに、掲載が決定した論文や記事の確認があります。既に掲載決定済みの原稿ですので、内容については確認しませんが、誤字や脱字、また章や節、図表の番号が正しいかなど、主に様式についてのチェックをします。その中で作業量が多い仕事として、引用文献リストの書式確認があります。ピリオドやカンマなどの区切り文字が正しく付されているか、ジャーナル名がISO4形式の略称となっているかについて、注意深く確認していきます。自身が論文を執筆した際には、引用文献リストを何度も確認して間違いがないつもりでも、最終原稿提出後に編集委員会から多くの誤りを指摘されて、「なぜ自分は気が付かなかったのだろうか?」と思うのですが、逆の立場になって他の方が書いた原稿を読むと、不思議なことに書式違いなどがよく目に付くようになります。

ISO4形式のジャーナル名略称については、本誌第23巻2号の「編集委員会から」で、前委員長の田中孝明先生が詳細に解説されています。本誌に論文を投稿される際には、ぜひご一読ください。ジャーナル名をISO4形式で省略する際のルールはいくつかありますが、名称を構成する単語をList of Title Word Abbreviations (LTWA)を用いて、省略形に置き換えていくという方法が、多くのジャーナルにあてはまります。LTWAのデータベースには、<https://www.issn.org/services/online-services/access-to-the-ltwa/> からアクセスできますが、csvファイルをダウンロードして使用することができます。csvファイルは時折アップデートされるので、上記URL中のリンクから随時ダウンロードしなおすことをお勧めします。

私がLTWAのデータベースを使い始めた頃に戸惑った経験をご紹介します。例えば、“decontamination”の省略形を調べるとします。すると、“Sorry : No Results Found.”と表示されます。一見、省略形が定められていない単語のようにも思えます。しかしここで検索を止めると判断を誤ることになります。つぎに、この単語を、“decontaminatio”のように、後ろから一文字ずつ消して検索していきます。すると“decontaminat”まで文字を消すと、“decontaminat- decontam. English, French”と表示されます。ここで初めて、この単語の省略形が、“decontam.”であることが分かります。さらに、以降の文字が何であろうと、“decontaminat”までが同じ単語は、すべて“decontam.”と省略するということがわかります。ですので、“decontaminate”も同様に、“decontam.”と省略されます。お気づきかもしれませんが、ISO4のルールでは異なるジャーナルが同じ略称になる可能性があり、また実際にそのような例もあります。しかしながらISO4の考え方としては、ジャーナル名を一意に識別することではなく、語幹からジャーナル名を推測することを目的としていると考えられます。ジャーナル略称が重複した場合は、巻や出版年などの情報も加えて文献を特定していくこととなります。

なお、GitHub (<https://marcinwrochna.github.io/abbrevIso/>) にジャーナル名を入力すると、LTWAを参照して自動的に省略形を生成してくれるサイトがあります。こちらを利用すると、簡単にジャーナル略称をチェックできます。

(東京大学 五月女格)